

1. 教育の責任

主な担当は、保育士資格および幼稚園教諭二種免許取得に関わる「保育の内容・方法の理解に関する科目」のうち、音楽分野、表現分野に関連した科目となっている。

担当科目名を以下に示す。

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

- ・ 「保育の展開技術Ⅰ」：演習、1年前期
- ・ 「子どもの生活と遊び発表演習Ⅰ」：演習、2年前期
- ・ 「子どもの生活と音楽遊びⅡ」：演習、2年前期
- ・ 「保育の展開技術Ⅱ」：演習、2年後期
- ・ 「子どもの生活と遊び発表演習Ⅱ」：演習、2年後期
- ・ 「保育と青森（表現）」：講義、1年前期
- ・ 「保育実践と青森（表現）」：演習、1年後期

【教育実践に関する科目】

- ・ 「教職実践演習」：演習、2年後期

【卒業研究科目（総合演習）】

- ・ 「特別研究」：演習、2年通年

【認定絵本土養成講座】 全30講座中9講座担当

本学科の音楽表現に関わる科目は、基礎力養成期に位置付けられた1年次科目から応用実践力育成期に位置付けられた2年次科目まで、「到達目標」・「授業内容」・「課題」・「評価基準」について科目間で密接に関連させて構成することによって学習成果を高める工夫をしている。実技系演習科目は複数の非常勤講師と協働して授業を実施する必要があるため、学生の習熟度と進度を公正に確認するチェックシートを用いて指導にあたっている。また、教授内容についても共通理解が得られるように教員間で話し合いを密に行っている。「子どもの生活と遊び発表演習Ⅰ」、「子どもの生活と遊び発表演習Ⅱ」、「保育と青森（表現）」、「保育実践と青森（表現）」は、他分野の教員とのオムニバス形式の授業展開となるが、共通の評価表を用いて評価項目や評価基準を明確に設定することで、総合的かつ多面的な評価ができるように努めている。2022年度より学科長として学科FD活動を企画・運営し、カリキュラムの改善・検討、学科の教育力の向上等に努めている。また、2024年度は認定絵本土養成講座導入の初年度であった。幸いにも履修者は9割を超え、スムーズな運営が実現している。2025年度の青森市内初の認定絵本土輩出に向け、講座責任者として尽力していきたい。

2. 教育の理念と目的

幼児保育学科の教育目的【幼児保育学科は、子どもの育ちと社会の幸福を支える専門的職業人として保育者を位置づけ、「自他に対する人間愛を土台として、より善く生きようとする子どもとその保護者の成長を支え社会に貢献する保育者」を育成することを目的とします。】は、建学の精神「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」を基盤として2022年に改定された。教育目的では、保育者を子どもと社会の幸福を支える専門的職業

人として位置づけている。「自」という言葉には、保育者の献身的な部分を超えて「保育を職業としながら生きていく人間として」という意味や「幸福を求めて人生を歩む一人の人間として」という意味が込められている。また、「他」という言葉には、「幸福を求めて生きる子ども」、「幸福を求めて生きる保護者」という対象の他に、「幸福を求めて生きる他の人々」という広い意味を含ませている。「人間愛」という言葉は、建学の精神の「愛あれ」に紐づくものとして捉え、思いやり・行動力・寛容・モラル・仁慈・笑い・ユーモア等の温かみのある愛を具現化する言葉として採択した。「より善く生きる」という言葉は、魂をより優れた善なるものへとするという「ソクラテスの弁明」に近い捉え方をしており、この言葉に「知恵あれ、真実あれ」の志を含めるものとした。

本学科の教育目的には、学生自身が短期大学で見つけた「問い」と私たち教職員の「問い」をさまざまな形で共有し、幸福を感じながら生涯学び続ける志と情熱を持った保育者を育成していきたいという想いが込められている。

3. 教育の方法

1) ピアニストとしての経験・演奏技術を活かした指導

保育者養成課程（短期大学）において短期間で演奏技術を習得し、音楽的な感覚を豊かにしていくために重要なことは、初期段階において普遍的な技術・技能を習得した上で、保育の専門性にマッチした教材の活用や指導法に転換・応用していくことだと考えている。複数の教則本の学修段階毎の目的や練習内容・方法を熟知していれば、その真髄（技術、奏法、表現方法などの）をよりシンプルにわかりやすく「子どもの歌」に関連付けて指導することが可能である。また、自らのピアニストとしての経験からも、ピアノの音作りの楽しさ、演奏技術の面白さ等を実践的に学生に伝えている。令和3年度から、ピアノの自主学習のためのレクチャー動画（ICT教育）を課題の予習・復習に活用し学習環境が改善された。カワイピアノグレードテストの結果からも学修成果の向上がみられている。

2) 実践による表現世界の感受と理解、保育力の育成

他領域との関連はもちろん、表現分野には造形活動、身体活動、音楽活動のほか、子どもたちの遊びや様々な活動が融合されている。領域「表現」に関する授業では、自然環境をテーマにした表現活動や、音で作るお話の世界など、子どもたちの周りにある音、言葉、絵などを組み合わせた創作活動を授業に取り入れている。さらに2024年度より認定絵本士養成講座が開講されたため、絵本という児童文化財、芸術作品に触れる機会や絵本の専門家に会う機会が劇的に増えた。学生自身が、身近にある様々な表現の多様性や素材に気づき、表現世界の奥深さを知り実際に体験することで、多様な視点や豊かな感性を持って保育を構成し展開することができる力の育成を目指している。

3) 「表現者」となる場の創出

2年間の表現活動の集大成として、2年生全員がオリジナルのミュージカルの制作・発表に取り組んでいる。制作活動は、2年前期開講「子どもの生活と遊び発表演習Ⅰ」と2年後期開講「子どもの生活と遊び発表演習Ⅱ」の授業内で実施している。制作したミュージカルは、青森市内の会場で毎年開催され、長年、地域の芸術文化活動として親しまれている。学生は、キャスト・造形・音楽の3分野に分かれて制作活動にあたり、各分野にて自己の力を発揮する。ミュージカルの題材は可能な限り絵本や童話などの児童文学から選ぶようにし、様々な文学作品の魅力に気づく機会としている。学生たちは、作品のテーマは何か、自分たちは観客に何を伝えたいのか、そのためには場面をどのように構成して物語をリメイクしてい

くか等の検討をしながらシナリオを読み解いていく。私はその過程を見守りながら助言をするとともに、軸となるミュージカルのシナリオ制作、ミュージカル作品に導入される音楽作品（作詞、作曲、編曲など）を提供している。分野練習、合同練習、会場練習、公演という一連の流れの中の様々な関わりを通して、学生たちは総合的に表現の世界を体験し探求していく。自身が何らかの役割をもってステージを創るという経験が、学生たちを「表現者」へと成長させ、その経験が、子どもたちの表現世界を広げていく保育者の実践的な力になることを期待している。

4. 教育の成果・評価

担当する科目の授業改善アンケートの評価結果概ね4.9前後となっており、全体的に見て良好であった。しかし、ピアノに関連する科目以外のものについては、1週間あたりの平均勉強時間は30分未満の割合が高くなっているため、到達目標、課題の水準について調整を図っていきたい。1年前期の音楽関連科目における成績分布のバランスは、S(43.3%)、A+(16.7%)、A(10.0%)、B+(10.0%)、B(13.3%)、C+(0.0%)、C(6.7%)という結果となった。基礎力養成期の授業内容および科目の到達目標の設定から鑑みて、上位層が6割以上であることは妥当だと判断しているが、C評価の学生増加したことで学生の習熟度の差異が広がった。欠席の多い学生の評価点が低い傾向がみられるため、アドバイザーとの連携により、個別の対応等により、学習意欲の向上につながるような支援をしていきたいと考えている。

ミュージカルに関連する科目の授業評価アンケートからは、

- ・先生からのアドバイスが的確だったので、改善点を改善しやすかった。友達と協力したことで、団結力が深まった。
- ・最高のミュージカルができたのは先生方のおかげでもあります。ほんとうにありがとうございました！
- ・本当に楽しかったです。とても良い経験になりました！
- ・みんなで協力して大きなことを成功させることができた。

といったような言葉を多数もらうことができ、学生の満足度・成果ともに高かったことが示された。

また、来場者に実施したアンケート結果からも、10年以上足を運んで下さる方がいること、多数の方が毎年公演を楽しみにしてくれていること、若い世代が生き生きと輝く姿に感動して下さること等が示され、本学科の継続的な表現活動が、地域における芸術文化活動の推進の一助となっていることが伺えた。人との関わりが希薄になりがちな現代社会において、ミュージカル制作という長期プロジェクトのような機会を継続することが難しくなっているのかもしれないが、本学科の学生においては、ミュージカルはより善いものを作り上げようという志、チーム力、受容することや伝えることの大切さを学ぶ重要な体験となっている。学生の価値観、求められる学習環境、地域ニーズ等を客観的に把握・判断する視点を持ちつつも、地域における教育機関の役割・意義とは何かについて再考し、人を育てる学科としての教育課程内外の充実、学修成果の向上を目指していきたい。

5. 今後の目標（改善・努力）

- 1) 認定絵本土養成講座の安定した運営を目指すとともに、地域における絵本活動の促進、他機関との協働体制の在り方等について検討する。
- 2) 鍵盤ハーモニカを活用した音楽教育、音楽活動についての研究を継続する。
- 3) 2024年度に自身によって再編集、再録音した過去のミュージカル作品のデータ（5作品）に加え、継続的に作品をまとめてCD化、教材として活用する。
- 4) 2024年度に制作した「ピオトープの唄」の活用、附属幼稚園での「5 Minutes Concert」の再開

含め、園児を対象とした音楽教育、鑑賞教育、表現活動、関連教材の作成等、教育の充実を目指す。

- 5) 自然環境を活かした教育環境（大豆畑等）の継続を検討する

根拠資料

- ・シラバス
- ・音楽関連 課題チェックシート
- ・授業レポート
- ・提出課題（創作作品など）
- ・授業評価アンケート、成績評価分布
- ・54期生ミュージカル「アラジンと魔法のランプ」シナリオ
同公演：来場者アンケート結果
- ・カワイピアノグレード取得状況・推移データ
- ・制作作品（ミュージカル導入曲、「ビオトープの唄」等） 他